

理科、生活科における自律した学び につながる「省察」の実践



秋田大学教育文化学部附属小学校

生活科
理科部

稲垣 勇介
村上 宙思
福田 佳子
清水 琢

生活科における **自律した学習者**

自分の思いや願いをもって対象
と関わり続け、対象や自分自身へ
の気づきを深めている姿



生活科部 昨年度までの成果と課題

成果 思いや願いに基づいた学習活動
省察の繰り返し位置付け
友達の困り事に向き合う場の設定

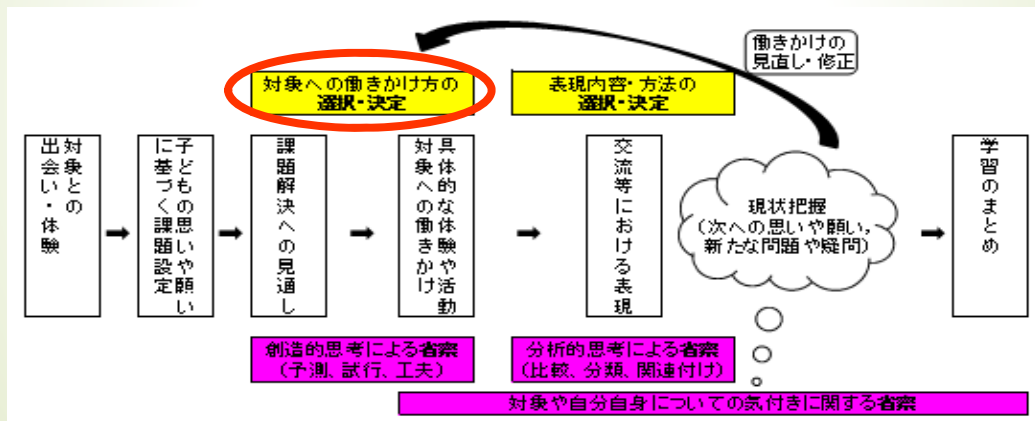
課題 思いや願いを大切にしながら，自ら追究していく子どもを育てる単元構成の在り方

生活科部研究テーマ

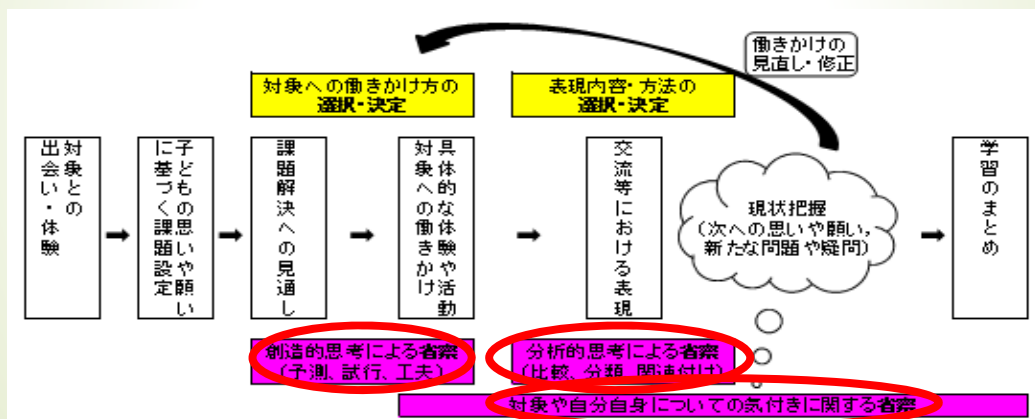
対象に主体的に関わり続けながら，
気づきを深めていく子どもを
育む学び

- 重点1 自らの思いや願いを基に，対象や対象への働きかけ方を
選択・決定できる単元構成の工夫
- 重点2 身近な生活に関わる「見方・考え方」を生かし，関わる
対象と自分の現状を把握した上で，気づきの質を高めて
いける**省察**の場の充実

重点1 自らの思いや願いを基に，対象や対象への働きかけ方を**選択・決定**できる単元構成の工夫



重点2 身近な生活に関わる「見方・考え方」を生かし，関わる対象と自分の現状を把握した上で，気づきの質を高めていける**省察**の場の充実



生活科における見方・考え方



見方

人や社会、自然などの対象と自分がどのように関わっているかという視点

考え方

創造的・・・試す、見通す、工夫する、等
分析的・・・見付ける、比べる、たとえば、
分類する、関連付ける、等

気づきの質の高まり・・・自覚化・関連付け・自分自身への気づき

実践 豊かに見方を生かし得られる気づきから、
考え方を生かした省察の充実



1年「『あき』でたのしもう」

秋田大学教育文化学部附属小学校 生活科部 稲垣勇介

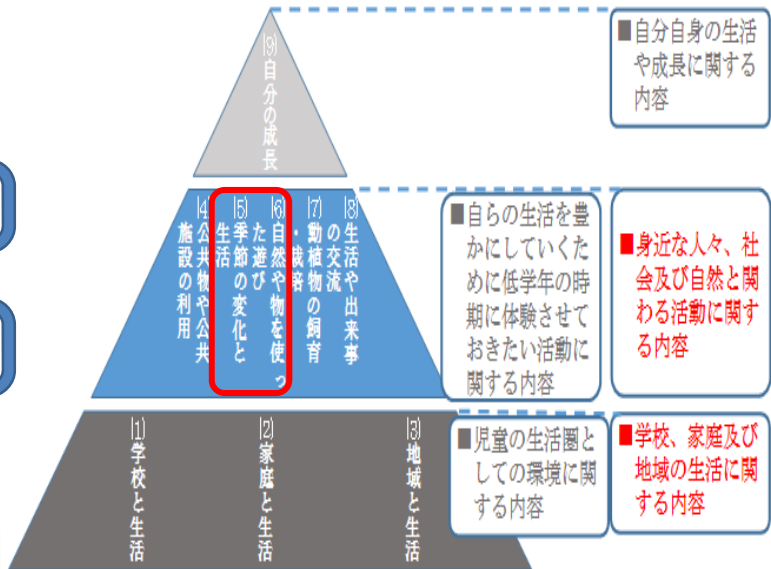
生活科の内容の階層性

「『あき』でたのしもう」

小单元Ⅰ
「『あき』を
みつけよう」

小单元Ⅱ
「『あき』で
あそぼう」

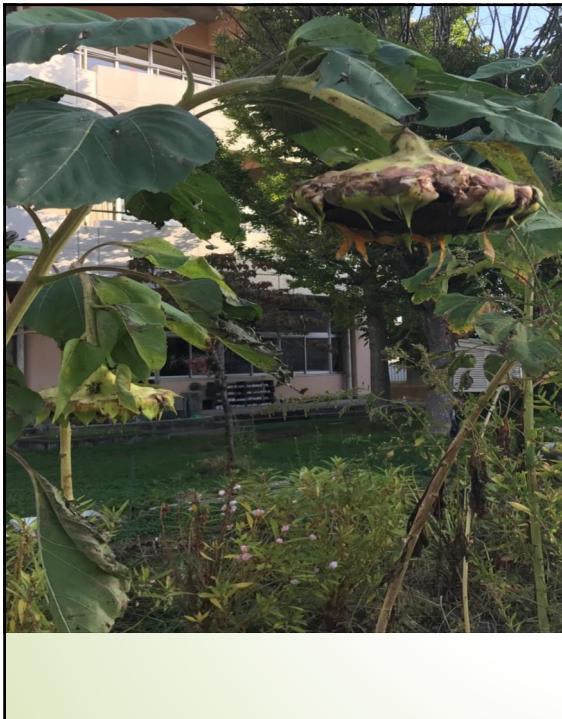
小单元Ⅲ
「『あき』ランドを
ひらこう」



たんぽぽがある。さくらがある。
→ はる

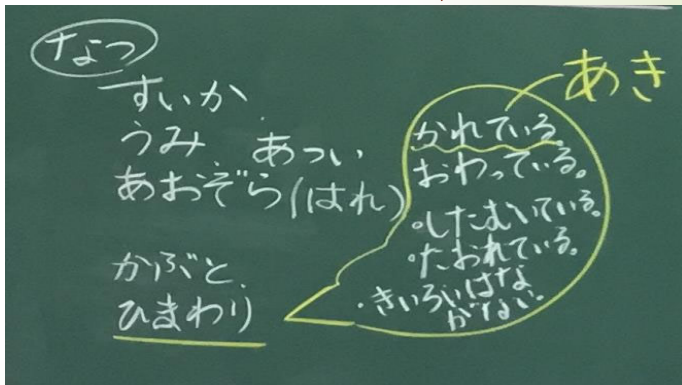
今の季節は？

ひまわりがある。
→ なつ



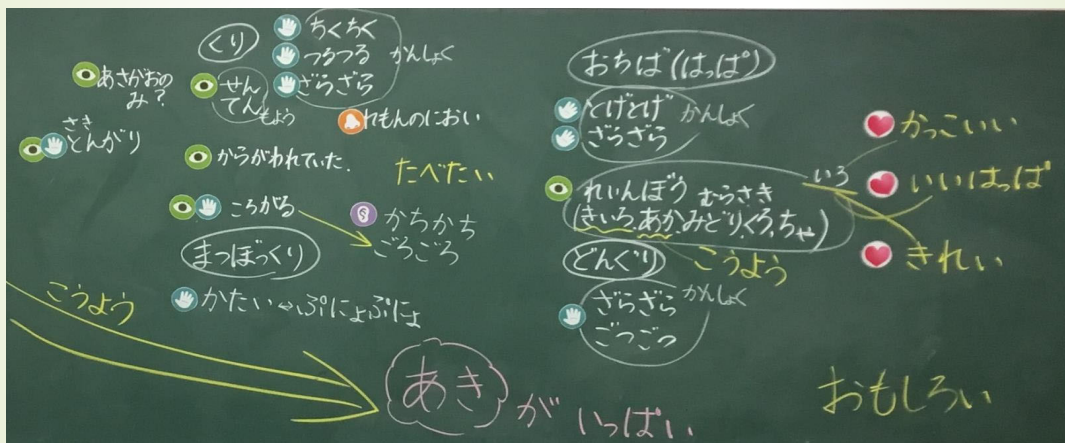
(夏と比べて)

気付いたこと



個で見方を生かし得た気づきの共有

→対話を通して**比較・関連付け**



→「あきであそびたい！」**新たな思いや願い**の表出

見方の生かし方のモデリング

13

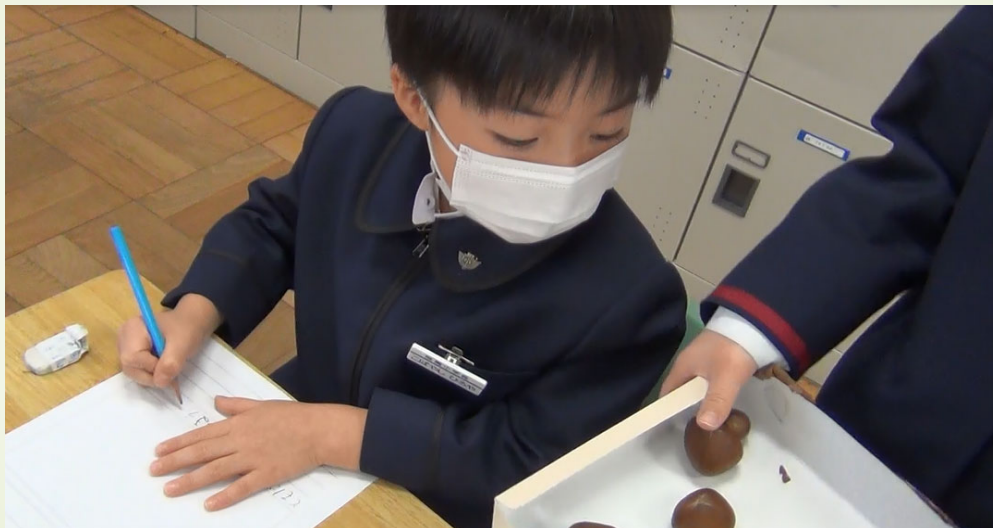


モデリングを通じたフィードバック

14



考え方を生かした省察



<比較や試行をしている場面>

きりんのあしにきゅふをつけて
すべらむたらかせ"のようなおとが"が
りきました。つきはきりんはひとが
のれるところをつけたら100てんも
とれると、おもいます。

見方
 →現状把握
 →見通し

見方
 →比較
 →現状把握

ほくのさくひんは、見るとか、さわ
るとかしかできないけれど、もま
んのさくひんは、さわるとかあど
とかいるな、あとかいあって!
いなとあもいました。こんどは、

本実践の成果

1. 児童や教師のモデリングを通して、「見方」がより豊かに自覚的に。
→見方の生かし方が多様になり、気づきの質が深まった。
2. 気づきの比較から必要感のある省察に。
→夏との違いから秋への変化を捉えることができた。
→友達との違いから自分の思いや願いを見つめ直し、対象への新たな働きかけにつながった。

本実践の課題

1. 単元内での「体験活動」と「表現活動」の場の位置付け
2. 自然発生的なフィードバック
3. 子どもが自己の変容に気付くことができるようにするためのポートフォリオ的な支援の手立て

【引用・参考文献】

- ・ 小学校学習指導要領解説 生活編 文部科学省 2018 東洋館出版社
- ・ 「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料
国立教育政策研究所教育課程研究センター 2020 東洋館出版社
- ・ 平成29年版 小学校新学習指導要領の展開 生活編 田村学 2019 明治図書
- ・ 授業の腕が上がる新法則シリーズ 「生活科」授業の腕が上がる新法則
谷和樹 2020 学芸みらい社
- ・ イラストで見る 全単元・全時間の授業のすべて 生活 小学校1年
田村学 2020 東洋館出版社